

待機時消費電力削減目標を 2008 年度末に達成しました

(社) 日本ガス石油機器工業会
省エネ対応委員会

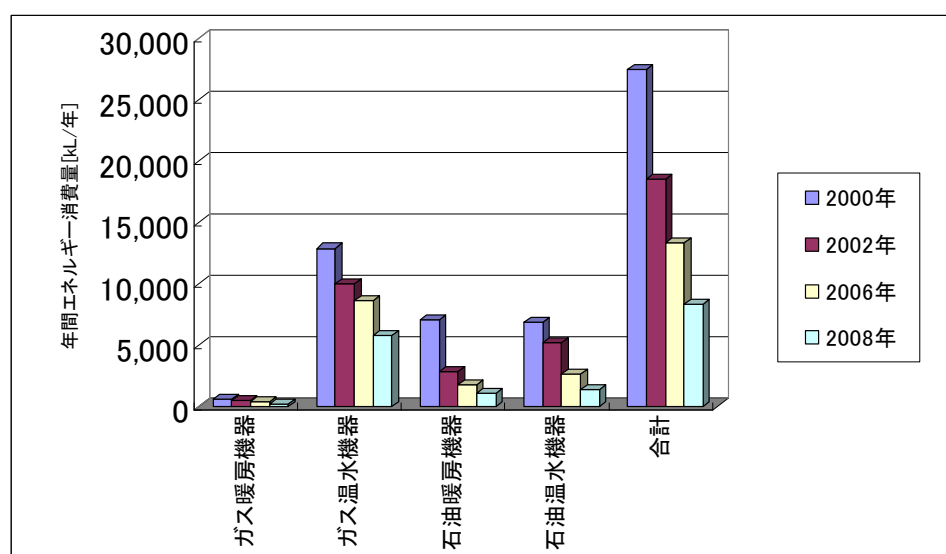
待機時消費電力は、機器が停止しているときに消費している電力であり、主として安全監視のために必要なものです。

ガス・石油機器メーカー各社は、よりエネルギー消費効率(ガス・石油エネルギー)の高い機器を開発するとともに待機時消費電力の低減についても 2008 年度末を目標に積極的に取り組んできました。

ガス・石油機器の待機時消費電力は、2000 年度出荷分では原油換算量で約 27,432 k L/年でしたが、機器毎に業界目標値を設定し、より待機時消費電力の低い機器を開発した結果、目標達成年度の 2008 年度では約 8,400 k L/年に低減しています。これは 2000 年度に比べて約 70% の削減になり、また、2008 年度の削減目標値 10,830 k L/年よりさらに 22% 低減になります。

待機時消費電力削減のための取り組みとしては、電源トランスの高効率化や機器本体やリモコン表示の自動消灯などの改善を行っています。

待機時消費電力の原油換算量推移グラフ



(参考) 機器毎の目標待機時消費電力

- ①暖房機器 (ガス・石油)
 - a) ファンヒーター … 1W以下
 - b) 密閉式 (FF式) ・半密閉式… 3W以下
- ②温水機器 (ガス・石油) でリモコンの電源が本体から供給されるもの。
 - a) 本体 … 2W以下
 - b) 本体+リモコン1台 … 3W以下
 - c) 本体+リモコン2台 … 4W以下
 - d) 本体+リモコン3台 … 5W以下
- ③ガス調理機器 … 1W以下